

資料 3

都立中央図書館の 在り方を考える 有識者会議 (第1回)

令和5年7月27日

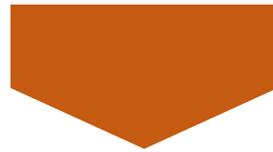


議事

- (1) 有識者会議について（目的、スケジュール）
- (2) 都立図書館の概要
- (3) 都立図書館に関するこれまでの検討
- (4) 今後の検討に向けた視点

1 有識者会議設置の背景・目的

- 都立中央図書館のこれまでの役割は、都民の調査研究や学習活動の支援
- グローバルな課題の発生やDXなど、社会環境が大きく変化
- 施設は築50年以上経過し、改築が必要な状況



本有識者会議においては、このような背景を念頭に、これまでの検討内容も踏まえ、都立中央図書館に的を絞った新たな機能・コンセプトを検討していく。

2 検討スケジュール

回	日程	内容案
第1回	7月27日(木)	○都立中央図書館の概要、現在の取組 ○新たな図書館に必要な視点
第2回	8月29日(火)	○新たな図書館に必要な視点 ○担うべき機能・役割
第3回	9月中旬	○担うべき機能・役割、コンセプト ○機能を発揮するための工夫（環境など）
第4回	10月上旬	有識者会議のまとめ （新たな図書館の機能・役割、コンセプト）

3 都立図書館について

(1) 沿革

- 1908年 東京市立日比谷図書館開館
- 1943年 都制施行、都立図書館となる
- 1973年 都立日比谷図書館の蔵書を引き継ぎ、有栖川宮記念公園内（現在地）に都立中央図書館開館
- 1987年 都立多摩図書館開館（立川市）
- 2017年 都立多摩図書館が国分寺市へ移転、開館



【都立中央図書館】

(2) 使命

「東京の未来を拓く力となる知の集積・発信」を使命に掲げ、国際都市・東京を情報面から支え、都民や都政の課題解決を支援

3 都立図書館について

(3) 機能・サービス

▶ 区市町村立図書館や学校等に対する支援

- * 図書館職員向けの研修会の実施、講師派遣、担当者会の開催
- * 協力貸出、協力レファレンス
- * 学校支援サービス（選書、読書活動・調べ学習の支援等）
- * 政策立案支援サービス（都職員の情報収集を支援）

▶ 都民の調査研究・学習活動の支援

- * 閲覧・複写等の来館サービス（個人貸出は行わない）
- * レファレンスサービス（来館、電話、メール等での調査支援）
- * 江戸城の設計図など貴重資料を多数所蔵

(4) 組織

- * 中央図書館及び多摩図書館の2館で機能を分担し、一体的に運営
- * 中央図書館は調査研究、多摩図書館は雑誌及び児童・青少年資料サービスの機能

4 都立中央図書館の概要

「東京都立中央図書館案内」（3分30秒）

<https://www.youtube.com/watch?v=rB4D4sjILAI>

4 都立中央図書館の概要

(1) 施設規模等

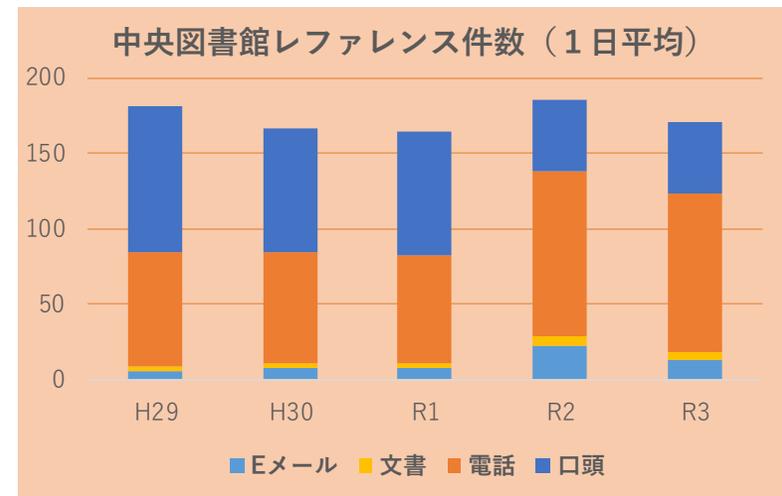
- * 地上5階・地下2階、延べ床面積 約23,196㎡
- * 蔵書数約221万冊、開架36万冊 閲覧席約900席

(2) 近年の利用状況

- * 新型コロナウイルス感染拡大前は1日平均入館者数1000人前後
- * 新型コロナウイルス感染拡大により非来館のレファレンス利用が増加
(H29とR3を比較すると、1日平均85件から123件に増加)



※ R5.5まで新型コロナウイルス拡大に伴い入館制限を実施



各年度『事業概要』から作成

4 都立中央図書館の概要

重点的情報サービス

4つの分野について重点的に情報を集めたコーナーを設け、都民の課題解決を支援するほか関連サービスを展開

○都市・東京情報

都政資料をはじめとする「東京」と、都市政策など「都市」に関する資料・サービスを提供

○ビジネス情報

企業情報や業界・市場動向等を調べるための資料・サービスを提供

○法律情報

身近な法律問題から法令の専門的な解説書まで、法律に関する資料・サービスを提供

○健康・医療情報

病気や薬等、医療に関する資料・サービスを提供

デジタル情報サービス

○デジタル化した資料をWebページで公開



東京都立図書館デジタルアーカイブ 江戸・東京デジタルミュージアム

○オンラインデータベース

新聞記事、雑誌記事、人物情報、ビジネス情報、法律情報などについて、30種類を超える各種オンラインデータベースを提供

○電子書籍

タブレット端末を館内で貸出しているほか、デジタルブックシェルフを経由して利用者自身の機器で閲覧可能

4 都立中央図書館の概要

多言語による情報サービス

○話題の洋書コーナー

外国語の新作図書・雑誌を集中して展示しているほか、海外で話題の図書を紹介

○日本語学習コーナー

初心者から上級者まで役立つ日本語学習用の図書を、言語別・テーマ別に展示

○中国語、韓国・朝鮮語資料コーナー

中国語資料約8万冊を所蔵し、うち約8000冊を開架
韓国・朝鮮語資料約2万8000冊を所蔵し、うち約4000冊を開架

調査研究に役立つ環境

○交流ルーム

ラーニングコモンズとして活用できる部屋を用意
ホワイトボードやプロジェクターの貸し出し有



○調査研究ルーム

セカンドオフィスや書斎として活用できる個人席
全席に照明、電源付き



4 都立中央図書館の概要

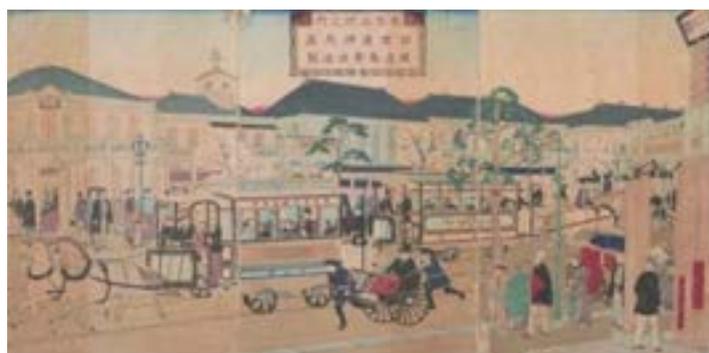
主なコレクション

○特別文庫室の貴重資料

江戸時代後期から明治時代中期の資料を中心に約24万3千点を所蔵。美術館等への貸出実績多数



『江戸御城御殿守正面之絵図』



『東京名所之内 銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図』
歌川広重画（三代） 明治15年（1882）

○海外資料

英語を中心にドイツ語、フランス語、ロシア語、及びその他の外国語で書かれた資料を所蔵

○東京資料

東京都（東京府、東京市）の行政資料及び東京に関する資料を収集・所蔵
明治以降の地図を多数所蔵



『大東京名所案内圖』

○地方史

全国の県史、市史、郡史、町村史などの地方史を多数所蔵

○美術情報

美術全集や展覧会目録など約7万冊を所蔵

4 都立中央図書館の概要

企画展示・イベント

○近隣の大使館と連携した企画展示

近隣に大使館が多く所在していることから、海外の資料やパネルを展示する企画展を多数開催



日本とペルーの国交樹立150周年を記念した『ペルー展』



○作家を招いたトークイベントを開催

読書活動推進のため、著名な作家を招いたトークイベントを開催



こどもの日トークイベント「「図書室で暮らしたい」ふたりの話」

○講演会・セミナー

就職活動やビジネスに役立つ情報収集の仕方等について、専門家を招いたセミナー等を開催

○時事・社会問題に関連したミニ展示

オリンピック・パラリンピック、関東大震災100周年、ノーベル賞受賞等

5 都立図書館に関するこれまでの検討

都立図書館在り方検討委員会（令和3年3月最終報告）

長期的な視点で都立図書館の在り方について検討し、今後の議論を進めていくための論点を整理

課題

**都立図書館の使命「東京の未来を拓く力となる知の集積・発信」を果たし、
国際都市・東京を情報面から支え、都民や都政の課題解決を支援していく必要**

- 1 AI時代への対応の遅れ** --コロナ禍でDXの遅れが顕在化--
デジタルコンテンツの充実等、時代に応じたサービスにアップデートする必要
- 2 来館サービスへの偏重** --立地的・時間的制約から来館しにくい都民もいる--
全都民にサービスを提供するため、非来館サービスの充実が必要
- 3 情報の創造・発信が不十分** --調査研究が主流で他利用者との交流が未浸透--
新たな知識を創出し、発信する場所への転換が必要

今後求められる都立図書館

首都の図書館として先進的取組を実践し、全国の公立図書館のモデルへ発展

<3つの役割を担う図書館へ>

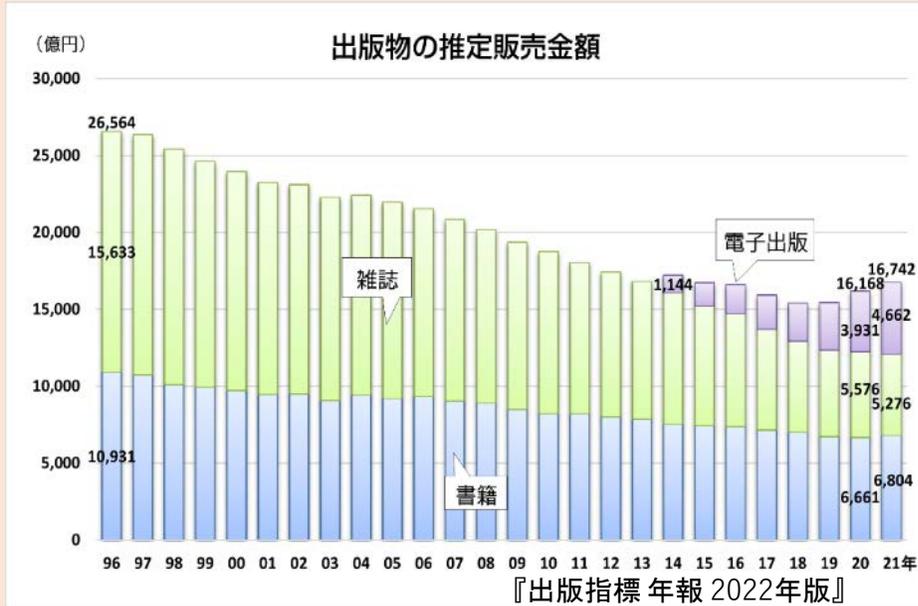
- 1 デジタル技術の進展に対応したサービスを提供する図書館
- 2 どこでも、誰でもサービスを楽しむことができるインクルーシブな図書館
- 3 利用者の研究・交流を支援し、**新たな知識を生み出す**図書館

6 社会の変化

【デジタル技術の進展】

AI や 5 G など、目まぐるしく進展する技術を柔軟に活用しながら、都民の多様なニーズに応えていくことが必要

- コロナ禍でデジタルの活用が加速
- デジタル活用による消費行動の変化
 - ・オンライン消費の増加
 - ・オンラインによる番組・イベント配信の増加
 - ・オンラインによる観光 等
- 企業の業績にも大きな影響



【社会の多様化】

「誰もが個性を生かし、力を発揮できる社会」、「様々な不安や困難を抱える人々に寄り添い、誰一人取り残さない社会」を実現していくことが必要

「読書バリアフリー法」の成立（令和元年6月21日）

障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするため、アクセシブルな書籍の充実等が必要

- 音声読み上げ対応の電子書籍、デイジー図書、オーディオブック、テキストデータ等の普及促進
- 点字図書、拡大図書、音訳図書、触る絵本、LLブック、布の絵本等の提供推進
- 視覚障害者・発達障害者・肢体不自由者等の障害の種類・程度に応じた配慮の推進

6 社会の変化 ～複雑化する都市課題～

都市課題がグローバル化かつ複雑化し、東京の持つあらゆるリソースを最大限に活用しながら対応することが必要

人類を脅かす感染症のパンデミック

- 国境を越えた人の往来が活発になる中、感染拡大リスクが急増
- 封じ込めには各国・各都市の連携・協力が必要



自然災害の頻発・激甚化

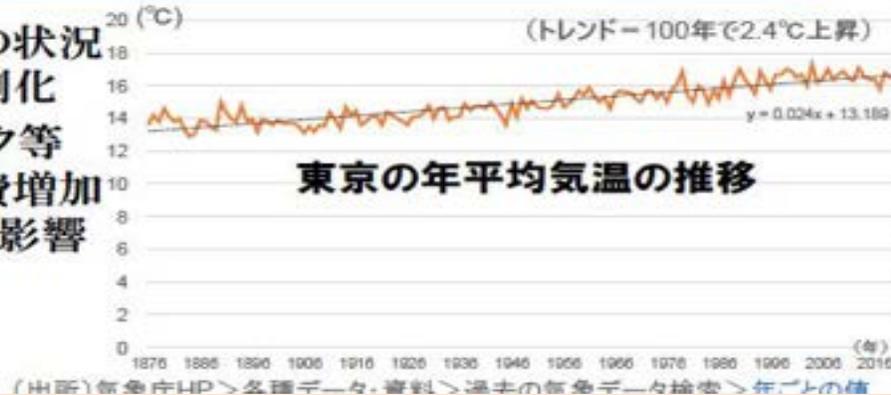
- 局地的豪雨による被害が増加
- 2021年に世界で発生した自然災害の被害額は上位10件の合計で1703億ドル(約20兆円、前年比17%増加)。1000億ドル超は2011年以降6度目(*)



台風により被害を受けた都道204号線(2019年10月15日)

地球温暖化の進行、プラスチック海洋汚染

- 気候危機の状況が一層深刻化
- プラスチック等の資源消費増加に伴う環境影響が増大



SDGs達成状況への注目の高まり

- 2015年、国連にて持続可能な開発目標 (SDGs) が採択
- 自発的自治体レビュー (VLR: Voluntary Local Review) の作成・公表の取組が世界で広がりつつある



(*) 英キリスト教系慈善団体クリスチャンエイド CA による報告書(2021年12月27日) 8
令和4年6月23日『国際都市戦略プロジェクト推進計画』から抜粋

7 これからの図書館を考える視点

首都東京の図書館
としてのイメージ

【例】

- ・ 知的交流や新たな知を生み出す場
- ・ 人々が集い、観光の拠点となる場
- ・ 都市課題の解決に向けた情報の集積・発信

あらゆる人々の
知的好奇心の喚起

【例】

- ・ 子どもの探究心を育む体験スペース
- ・ 障害特性に応じた情報提供や、本の世界と触れ合う体験
- ・ 所蔵資料を活用し、社会的な課題等について考えるきっかけを提供する企画・展示

最先端テクノロジーの活用

【例】

- ・ デジタル技術を活用した体験型の展示
- ・ 国内外の図書館等との連携・協力
- ・ 入退館管理や蔵書検索等の利便性向上

※AIによるレファレンスや非来館型のサービスなど、現在のサービスへのデジタル活用は別途検討中